教員氏名：渡辺 一洋 （児童教育専攻／准教授）

１．教育の責任（何をやっているか）

児童教育専攻に所属し、主に、教員免許と保育士資格の両方に関する保育内容（表現）及び図画工作を扱う授業や､3･4 年時の保育実習に関わる｢保育実習指導Ⅰ･Ⅱ(保育所)｣、「保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所)」､3 年時の就職に関する「キャリアプランニング」を担当している。1・2 年生の「ゼミ」においては毎年度担任を持ち、4 年時の「卒業研究」では、卒業製作や卒業研究付帯論文を通して、各学生の専攻に応じながら幅広く多様なテーマで毎年度指導や卒業制作展を企画・運営してきた。また、公立・私立の保育系就職において、学生の進路希望に応じた就職対策指導を行っている。クラブ活動においては、JCC クラブを通じて、長期間、地域貢献活動として、保育技術を研究した成果を披露する自主企画や地域の子育て支援サークル、行政機関、NPO と連携しながら、保育や児童文化に関わるイベントなどを実践してきた。

現在の主な担当科目一覧		
育英大学	教育学部教育学科	図画工作、初等教科教育法（図画工作)、幼児と表現 B、造形表現演習Ⅰ・Ⅱ、保育内容（表現 B）の指導法、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ（保育所)、保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所)、キャリアプランニング、卒業研究など

２．教育の理念（なぜやっているか）

専門分野を研究するものとしての理念とその背景や経験

私は、造形教育及び美術教育を専門としながら、製作活動も並行しつつ、理論と実践研究を通じて、教員養成や保育士養成における造形分野を主軸とした力量形成に関する研究に関わってきた。当初は、絵画製作を中心とした技法・材料研究を行っていたが、教員養成や保育士養成において、造形活動の魅力を学生自身に再発見してもらい、実習や進路に活かしてもらうためには、どのような教育的な工夫が必要かについて考える中で、研究テーマや幅を広げてきている。

学生の学習に対する理念

私が担当する教職や保育士の科目は、幼児の発達段階に応じた表現や小学校図画工作科

に関わる部分であり、幅広く製作や鑑賞を通した表現を探求していく学びが求められるため、学生には豊かな創造力や感性、造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を活用する表現方法を工夫する実技を通した教育的な手法についても具体例を用いながら解説している。

社会における大学教育の位置付け

保育者養成及び教員養成に関わる本学の教育は、社会に対する期待と大きな責任をもつと考えている。

３．教育の方法（どのようにやっているか）

具体的な教育上の実践や教材の工夫

より確実な学習成果に向けて、以下の工夫を行っている。

①演習系授業、講義系授業ともに基本的にパワーポイントを使用している。言葉の説明でわかりにくい基礎的な技法の解説や作品製作の展開について、受講する学生が視覚的に理解しやすいような教材作りを行っている。

②実技においては、なるべく保育・学校現場における材料に沿った材料や実践を想定して授業内の作品製作を行っている。

③Google Classroom を活用し、学生がスマホで撮影した作品画像、作品製作の構想及び過程や振り返りを記述した小レポートも一緒に提出させるようにしている。

学生との関係構築のための工夫や配慮

授業のまとめとして総合的な理解を確認していくレポート課題や各授業内における小レポートを通じて、受講している学生が理解を深められるように工夫している。また、授業内で作品や作品の画像を用いた発表を行うことにより、受講している学生の作品鑑賞の力を養う工夫を行っている。このことにより、製作した作品の良さを味わう体験や鑑賞のポイントなどの説明に配慮している。

４．教育の成果（行った結果どうだったか）

学生の学習成果

学生の中には、当初、製作に関する苦手意識がある学生もいるが、授業を重ねていくごとに、取り組みの様子から意欲向上が感じられる場面がある。最終的には、製作作品や課

題レポート、総合まとめレポートにおいて優れた成果を出す受講学生もおり、全体的に授業内容や難易度には問題はないといえる。

学生による授業への評価

表現におけるイメージを言葉で伝えつつ、理論的な説明を行う際に抽象的な内容にならないようにしており、授業の学生からの評価は平均近くもしくは全体平均より高い数値になっている。しかしながら、個別に見てみると、授業の学習に対応できない学生からは、評価が下がっている傾向が見られることも着目点である。そのため、特に個別な授業評価の意見を大切にし、改善しながら、より保育者養成及び教員養成における学習内容を考慮し、確実な学習成果の達成を目標として、授業を構築していきたい。

５．教育における今後の目標（これからどうするのか）

短期的な目標

これまで行われていた表現方法や教育方法は、今日、多様なアートの概念の中で多様化している。具体的には、情報機器を用いた鑑賞活動や「材料、イメージ、環境、行為、出来事、場、共同性、グローバル化、社会的創造活動」などの視点から幼児の表現から小学校までの図画工作の内容を包括的に捉え、造形活動の意味と意義を幼児から小学校までの育ちから明らかにし、私の立場から保育者養成及び教員養成の授業構想の手がかりを解析していくことについて、向こう２～３年をかけて試行錯誤していきたい。

中期的な目標

前述したような問題意識をベースにして、保育者や教員になり、実際に現場で表現活動に携わる学生達が自分自身も生涯の中でアートに親しみ、その豊かな感性をもって保育や図画工作の授業に取り組んでいけるように、これまで蓄積してきた資料などから新しい教材やテキストの作成に取り組んでみたい。

【添付資料】　※全部又は一部の現物を省略しています。

１　担当科目のシラバス

（2024 年 8 月 30 日現在）